

# 五歳児の記録

⑤



磯部景子  
堀合文子  
津守真

六月二十四日 金曜日  
誕生会のおやつを入れるかごをつくる

九時

今日も大半の子どもは庭で遊んでいる。保育室には⑧、I、A、

⑨、⑩、⑪がいる。

⑧はひとりで画用紙で冠をつくっている。すでにひとつつくりあげてふたつめをつくっている。画用紙にクレヨンで黄色にぬり、ところどころ赤や青で模様をつける。はさみできりぬく。

Iもひとりで画帳に絵をかいている。

Aもひとりで小つみ木を丹念に積んでいる。

⑨と⑩はそれぞれに本を読んでいる。

⑪は先生が高窓をあけたり机をふいたりしているあとをついて歩き、先生とはなしをしている。先生はさつとそうじを終り、机の上に画用紙とクレヨンを運んでくる。

「今日はね、あしたがお誕生会でしょ。かごをつくりましょうね」と⑪にはなしかける。

⑨が登園する。小さな石を持ってきて、真剣な顔つきで先生にはなしている。先生は⑨のはなしをきいている。先生は⑨から石をうけとって、子どもたちがつくった作品をかざっておく机の上に置く。

先生は庭の子どもたちのようすをみる。

⑤が登園する。つゆ草を持ってくる。

先生は⑤、⑪とはなしながらつゆ草を花びんにいけて、子どもたちの机の上におく。

九時十分

⑤「先生、誕生会のかごつくってもいい」

先生「ええ、いいですよ。どんなのがいいでしょうね。同じ形ばか

りじゃなくてよく考えてね。さあ、どういふふうにしましょうね」

K「がてんとう虫をつかまえてくる。」

K「先生、てんとう虫の形のかごは？」

先生「それは、おもしろいわね」とてんとう虫を入れるびんを持ってくる。

先生「Kちゃん、てんとう虫、何のはっぱにとまっていたの」

K「あじさい」

先生「Jちゃん、Sちゃん、クレヨンとはさみを持ってきてまわってね」といって、まわりに集まってきた子どもたちとはっぱをとりに行く。⑤、⑥、⑦、⑧がはさみとクレヨンをとりに行く。

⑨が冠を切りとった残りの紙を先生のところに持ってくる。先生は「大きいところだけとっておいてね」と⑩にいう。

⑩は冠をひきだしにしまって、はさみとクレヨンを持ってくる。

先生はてんとう虫のびんを机の上におく。Mの絵をみて、Mにはなしかける。

T「先生、外にいてもいい」

先生「ええ、いいですよ」

Tはかけだして行く。

先生「さて、どんなかごにしましょう」といいながら①や②がすわ

っているところにきて、子どものいすにすわる。画用紙を手にとりながら、

先生「こうしましょうよ。まんなかに四角をかくて、その四角が底

になるのね。そしてまわりにてんとう虫のすきな人はてんとう

虫、お花でもいいわね。まわりは何でもいいのよ」

と画用紙の中央に十三cm×十五cmくらいの四角をかく。先生を囲んで女兒四人がつくりはじめる。

E「何をつくっているの」

先生「お誕生会のかごよ」

先生「こうして紙をうごかしてかくと、順番にできるでしょう」

と①、②たちにはなしかけながら、四角のそれぞれの辺にそって、てんとう虫のかたつむりを交互にかく。

先生「こんどは赤いボタンで黒い洋服のてんとう虫にしましょう」といいながらふたつめのてんとう虫をかく。

先生「③ちゃん、こういうところはじゃじゃでなくて、こういうふうにていねいにかくといいわよ」と④にいう。

④が四角の中に模様をかいているのをみて、

先生「ああ、お花にとまっているのいいわね」

と先生は四角の中に花をかく。

E、Kがみている。

先生「Eちゃん、Kちゃんも紙は机の上にあるわよ」ときそく。

先生「ちょっと、てんとう虫の頭をみてるわね。どうなっているかしら」と立ち上って、てんとう虫を見に行く。

## 九時四十分

④「汗、びしょびしょになったの」

と④たちが庭から帰ってくる。先生は子どもたちがタオルで汗をふくを手伝いながら「あしたお誕生会だから、お部屋で、誕生会のかごをつくりましょう」という。

次々に子どもたちがクレヨンとはさみを持ってくる。

先生「今日はね、底のあるのをつくるのよ。紙のまん中に四角をかくて、いちばん真中にかくてね、そしてまわりに鉄人でもいいし、自動車でもいいし、①ちゃんはちょうちょうと花ね、先生はてんとう虫とかたつむりにしたけれども何でもいいのよ」とひとりひとりにはなす。

先生「ごちそうがおちないようにたくさんかくてね」という。先生はつくるのをやめて、子どもたちが次々とかいて持ってくるのをみてあげる。ほめたり、はげましたり、注意したりする。

のりをだしてきて、のりをはれるように場所をつくる。

Nが四角のまわりに自動車をかいてくる。先生はNの自動車をみて、自動車をもっといいねにかくように、屋根とか窓を工夫するようにと注意する。Nが机にもどり、屋根、窓をかいて先生のところにくる。先生は人がのっているところの方がいいという。Nはまた机にもどり、人をのせる。それからビルディングをかく。また先生のところに持ってくる。先生はビルディングが建ってよかったこ

と、とてもすばらしい自動車のかごになりそうだいいながら、のりつけをえんぴつでかいてあげる。Nは机にもどってはさみできりぬく。のりをつける。先生は先におってからのりをつけるといいという。きりぬいたのこりのかみで柄をつくり、のりではりつけてできあがる。

Aは顔を四角のまわりに四つかいて、耳のところをのりつけにする。⑤は四角のまわりに扇形を四つかく。

⑥は画用紙のまん中に小さな四角をかき、そのまわりにきれいな模様をかいて持ってくる。そのままかごにしたのでは小さくてお菓子が入らない。先生といっしょに考えて四角と模様をいかして、その外側にもう一つ大きな四角をかくことにする。

①はのりつけをつけないで切ってしまい、のりをつけにいて、のりがつかないのに気づいて先生のところにくる。先生が考えて、花を四つつけてそれぞれの角にはることにする。

## 十時四十五分

保育室でかごをつくっているのは六人だけになる。庭ではリレー、ゴムとび、野球、信号あそびなどがはじまる。

六月二十六日 金曜日

パレーごっこ 時計がふたつできあがる 遊戯室で音楽リズム

机の上にIが一週間前につくりかけた自動車がおいてある。子ど

私たちはそれぞれの場所であそんでいる。保育室内では冠づくり、くみ板、ままごとあそびが盛んに行なわれている。

バレーごっこ

㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、が朝から画用紙に模様をかくて、きりぬいて冠をつくっている。㉚は昨日から冠づくりに夢中である。

先生は㉛に「ひとつつくったら、大事につかえばまたつかえるでしょう。お花もかくといいわね」という。わら半紙でつくっていた子どもたちには「かたい紙でつくったら」という。

先生は空色や桃色のリボンを戸棚からだしてくる。

㉜「先生、できた」

と㉜が冠を頭にのせてみる。先生は㉜の冠を手にとって、先生「あら、いいじゃない」といって、また㉜の頭にのせる。

㉝は鏡を見に行く。それから穴あけで冠に二箇所穴をあけてリボンとおす。また鏡を見に行く。㉞は冠をつくりあげて、リボンでかざりをつくる。

先生「手にもかざりをつけたいでしょう」と㉞の手にリボンを結んであげる。

だんだんかざりができてくる。

㉟「はやくつくってね。あと十秒ではじまるから。だれかレコード係になってちょうだい」

他の子どもたちはいそがしそうにかざりを身につける。

先生はままごと遊びの子どもたちとちどころに行つて、ちらかつて

いるところを片づける。

㊦「はじめますよ」

とレコードをかける。㊧とふたりで組んでおどります。

㊨、㊩もおどります。

M「やろうよ」

とMはOをきそつていすといいたてを運んできて、切符売り場の人になってみている。しばらくして観覧席をつくる。

先生は机を隅によせて場所を広くする。

一曲終る。

㊪「先生、あとできのうたのんだレコードを持ってきてね」と先生にいう。㊫はまたレコードをかける。

㊬「レコードが小さいから気をつけてね。㊭ちゃん、㊮ちゃん」とみんなを並ばせる。みんな手を横つなぎにする。

ままごとあそびをしていた㊯、㊰、N、Eがかごをさげてみにくる。

M「みる人は切符を買って下さい」

先生は子どもたちのようすをみて、「みんな、こんなにすきなら、いいかみでスカートをつくってあげましょうね」という。

㊱は胴にリボンをつける。

㊲「先生、こうするの」と先生に胴にリボンを結んでもらう。

先生「リボンはあげるからおわたたら大事にひきだしにしまっておいてね。くちやくちやになるけど、自分でなおしたり、お友だち同士なおしあえばいいわね」

みていた子どもたちはままごとコーナーに帰る。

M「バレエをみる人は切符を買って下さい。そして帰る人は切符をかえして下さい」

O「入場券をどうぞ」

㊦「一羽の白鳥になったのね」

㊧「わたし、お姫さまよ」と夢中になっている。

先生は切符を買って観覧席にすわる。レコードの曲をきいていて「ちょっと速すぎるのではないかしら」と子どもたちにいう。ままごと遊びをしていた人たちがまた大勢でバレエをみにくる。

M「切符売り場はこちらです。ごじゅんにお並び下さい」

O「なるべく、入ったり、出たりしないで下さいね」

バレエをしていた㊦が観覧席のMのところにくる。

㊧「ねえ、Mちゃん、入れてね」

Mはうなずく。㊧はバレエをしている㊦たちに、

㊦「わたしMちゃんのうちのお姉さんになったわよ。いいでしょう。わたしバレエをならっているのよ」

ままごとあそびは庭の石段のところに引っ越しはじめる。おどっ

ている人たちだけ夢中で、みている人はだんだんいなくなる。MとOも「やめたよ」といって庭にでていく。

時計がふたつきあがる

Iはひとりで時計をつくっている。先生はIのとなりで振子時計のリボンをつけている。

Hが先生のところにくる。机の上のつくりかけの自動車をみつけて、

H「あっそう、わすれていた。あとからする」

と庭にでる。しばらくして帰ってきてつくりはじめる。

H「ね、先生、ここタイヤのところ」

先生「前をぬるだけじゃなくて、ライトをつけてもいいわよ」

H「何をかこうかな」といいながらぬりはじめる。

H「あと、タイヤだけだ」

のりでタイヤをつけかけて、

H「あっそうだ、ぬってからにしよう」とのりをつけるところはぬらないで残している。ぬり終り、タイヤをのりで車体にはりつける。

H「車が倒れちゃうの」と困ったように先生にいう。

先生「Iちゃんのようにかわくまで倒しておくといいわ」という。

カメラ

㊦が空箱をもってきてカメラをつくりはじめる。先生に頼んで丸く切りぬいてもらう。長い時間かけてつくりあげる。

㊧「わーだれか、切符売り場の人になって」

㊨は朝からひとりで絵をかいている。

㊩「㊥ちゃん、切符売り場の人になって」とたのむ。

㊪は入ってきて、いすを並べかえる。

㊫「先生招待してあげるから見にきてね」

先生は㊬のカメラをつくり終って見に行く。

先生「何をして下さるの」と㊭にたずねる。

㊮はリボンでかざりをつくりはじめる。

庭ではまごこと、砂場、おにごっこ、ブランコなどであそんでいる。

十時五十分片づけがはじまり、十一時十分から遊戯室でリズムがはじまる。

六月二十七日 土曜日

飛行機時計 モーターボートをつくる ちょうちとり リズム楽器をつかって合奏をする

男児数人が保育室で朝からずっと、時計やモーターボートをつくらしている。女兒はみんな午前中いっぱい庭であそんでいる。先生は

時々庭のようすをみに行くのみで、ずっと保育室で子どもといっしょに製作の材料をさがしたり、子どもといっしょに考えて、子どもたちが時計やモーターボートをつくる手助けをする。十一時頃から帰園するまで三十分位、全員でリズム楽器をつかって合奏する。

#### T 飛行機時計をつくる

Tはダンボールで飛行機をつくり、翼に文字板をつけて飛行機時計をつくる。ダンボールを筒にして、飛行機の胴体をつくる。胴体の直径は八センチくらいで長さは三十センチ位である。ダンボールを二枚羽根型に切つて、翼にする。直径八センチ位のびんやかんのふたに文字板をつくる。文字板の中心を釘で穴をあける。厚紙で時計の針をつくり、文字板にびじょうでとめる。文字板をセロテープで翼にとめる。

#### 時計とモーターボートをつくる

Hは時計をつくりあげる。Tがつくつていような飛行機の時計がつくりたくなる。

H「今度、飛行機の時計つくるから紙をちょうだい」

先生「じゃあ、長い紙がいいわね」とHといっしょに厚紙をだしてくる。

H「こういうの」とTのつくったかんのふたの文字板を指さす。

先生「ああ、こういうのね。じゃあ、かんを探しましょう」

とHといっしょにかんやびんの入っている材料箱を探すが、Tのか

んと同じ形のものが無い。

先生「さあて、困りましたね。あら、これも何かにつかえそうね」とセロテープの使い終った輪をHにみせる。Hは関心を示さない。

先生「さて、Hちゃん、どうしようか。そっくりTちゃんと同じじゃないといけない？」

H「ちょっとはちがってもいい」

先生はなお材料箱をさがす。

先生「あら、こういうのをこうさしこんで使ってもいいんじゃない？」

とホリコッフとかんをつないでHにみせる。Hは興味を示さない。

Aがみて、

A「それ、東京タワーみたいになるね」

先生「そうね、東京タワーみたいね」といいながら、かんをさがす。

H「ぼくは時計なんだ。飛行機だけ作るんだったらそういうんだ方がいいけど」

先生とHがかんを探しているところにNがくる。

N「ねえ、先生、ぼくのモーターボートは？」

先生「あ、モーターボート？　これじゃない？」と机の上のモーターボートをNにみせる。

N「うん、それともう半分あるんだよ」

先生「じゃあ、ここに残っているかしら」

とつくりかけのモーターボートがいくつか入っている箱をだす。

Hもきゅうに自分のモーターボートのことを思いだす。

H「ぼくも、モーターボートあるよ」と自分のモーターボートを探しだす。

H「あ、これ、まだつくりかけだ。びんつけるから、びんちょうだい」

先生「びんなの？　じゃこういうのはどうお？」と、びんをだしてみる。

H「うん」

しばらくして、Hはモーターボートを完成する。

F「先生、ぼくもモーターボートつくる」

先生「ああ、そうね、その箱の中でちょうどいい箱を探すといいわ」

H「ぼくはもういいや」

先生「そうね、Hちゃんはたくさんつくったからね」

Hは道具を片づけて、庭にでて行く。

先生は飛行機時計をつくっているTやAのそばにすわって、さきほどのかとホリコッフをセロテープではり合わせる。先生はTとAの飛行機時計をみて、

先生「いいわね、TちゃんのとAちゃんの、両方とも飛行機時計だけれど、少しずつちがうのね。時計をかいてあるところが」

A「先生の、東京タワー？」

先生「そう、さっき東京タワーっていついていたわね」

Yが先生のそばにくる。

先生「ほら、これ、おもしろいでしょ。ロケットみたいでし  
う」

次々と子どもたちが、材料のことなどいつてくるので、先生はつくりかけたロケット型を机の上においたままで、子どもたちに応ずるのにいそがしくなる。Aは飛行機のつばさをマジックで一松模様  
にぬっている。

A「ほら、先生、きれいでしょ」

先生「あら、まあ、ほんと、きれいなえ」とAの飛行機をみる。

Bは先生がつくりかけたロケット型を持ってきて、

B「これ、ロケットにするの？」と先生にはなしかける。

先生は笑いながら、

先生「ああ、そうなの、そうしようかと思ってつくりかけたんだ  
けれど」

A「ぼくが、今度、あさってつくるんだよ」

・モーターボートを作っている子どもたちと先生との会話

先生はFの飛行機の翼にする紙をきりながら、モーターボートをつくっている子どもたちとはなしている。

先生「いろんな船があるわよね。ほら船の先の方がのこぎりみたい  
なのがついたのがあるのね」

B「そうだよ、テレビでやってるよ」

C「それで潜水艦みたいで、飛べたりもするんでしょ」

先生「そうなの。もぐったり、上にでたり、飛んだりできるのね。  
みんな大きくなるといろんなことを考えだすわね」

・翼がうごく飛行機

E「あ、そうだ、ねえBちゃん、これはね、動くようにしよう  
か」

B「そのはねの時計のところに穴があいてるから、そこに針金を  
通して、それでこっち側にも穴あけて、針金を通してヒュー  
ラ、ヒューラするといいよ」

E「ヒューラ、ヒューラ」とうれしそうにいう。

E「先生にいつてこよう」とふたりいっしょに庭に先生を呼びに  
行く。

B「ヒューラ、ヒューラ」と節をつけて歌いながら、Eの飛行機  
を持って翼を動かして歩く。

先生「あーら、いいわね」

B「ここに針金を通して、上からつりさげてヒューラ、ヒューラ  
動くようにするの」

先生「ああ、いいわね。時計はここにつけたの？それでここはどう  
する？（胴体の筒の前後はぬけたままになっている）……プロ  
ペラですか？……これから？……これから作るところ？……」

のはね、両方ぬらなくちゃね。針はこのままでいいの？ Tちゃんみたいに切つてとめなくも」

Eはだまって先生といっしょに保育室に帰ってくる。

Eは机にもどつてぬり残した翼をぬり始める。

Yは翼を両方ぬりあげて「ビューン」といいながら歩く。

TやAが、つくつた飛行機をいじくりまわす。

先生「Eちゃんの飛行機いいわよね。だけどどうにかしてプロペラがつかないかしらね」と先生の机の上において飛行機をみる。

B「先生、これ、あとつづきにしている？」

先生「いいわ」

B「よかった、よかった、つづきにしているって、あとつづきにしよう」

先生「Bちゃん、はねやなんかいっしょにしておかないと」

B「うん」

・Y、ちようちよとりに夢中になる

Y「先生、大変、ちようちよみつけたの、まっ白いの」と庭からかけこんでくる。

先生「まあ、ちようちよ？どれどれ」と見にくる。すぐに虫かごをだしてくる。

JとIがちようちよを中に入れる。

I「わあー、先生、横からでちゃう」

先生「でてしまう？ あら、ほんと、でちゃいそうね。それじゃ、びんに入れましょう」

とびんに入れかえて、上からガーゼをかぶせる。

Y「じゃあ、先生、またちょっと、ひとっぱしり行ってくるよね」

先生は笑いながらYが走っていくのを見る。

Y「先生、またつかまえた」とかけこんでくる。

「あら、ずい分じょうずなのね」

Yに手伝つて二匹目のちようちよをびんに入れる。

先生「二匹だこのびんじゃ、少しせまくてかわいそうね」と大きいびんに移しかえる。

Y「じゃ、またとってくる」

Y「せんせーい、またつかまえた、今行つたと思つたらすぐつかまっちゃった」

先生「あら、ほんと、Yちゃん、どうしたんでしょ」

Y「どこに入れる？」

先生「そこ、そこ、さっきのびんがいいわ」

Yはびんにちようちよを入れる。

Y「あ、先生、今、子どもをうんだとこみたいよ」

先生「あら、どうして」

Y「ほんとだよ、だって、青虫みたいのがいるもん。今、青虫う

んだとこだ」

A 「どれ？」

B 「見せて」

室内で製作をしていた男児たちがみんな席を立てて見に行く。

A 「ほんとだ」

Y 「ねえっ」

先生「どれどれ、先生にも見せてちょうだい」とびんの中をのぞき込む。

B 「これ、前からいた虫だよ。ぼうがあるもん」

先生「あーら、Yちゃん、びんをまちがったのよ、ちょうちょは、こっちのびんだったのよ」

先生も子どもたちもみんな笑いだす。

J 「なーんだ」

A 「おどろかせるなあ」Yはまた庭にでていく。

みんなそろって合奏する

製作をしている子どもは少なくなる。

先生「さて、そろそろお片づけにしましょうか。そうね、庭の方にもお片づけって教えてあげてちょうだい。あつ、それから子どものお家の〇ちゃんにも教えてあげてちょうだい。そして片づけるのを手伝ってあげてね」

片づけおわり、みんなピアノのまわりに集まる。

先生「ねえ、ほら、こんなに、またいろんな時計を作って下さった

のよ。いろんなのができたわね。だけどもう少したくさんできないと時計屋さんしても買いにきていただけないわねえ。また

みんなお手伝いして作ってちょうだいね」

M 「あと二十五くらい」

先生「そうね、もう少しあった方がいいわね」

T 「五十くらい。百くらいだ」

先生「では、お当番さん、Hちゃんと〇ちゃん、ちょっとお手伝いしてちょうだいな」と当番に手伝わせて、全員にカスタネットを配る。

先生「あら、まあ、今日はみんなお上手に持っているらしくてあんまりカチカチって音がしなくていいですね」

先生はピアノをひきはじめる。

先生「さあ、上手にたたいてちょうだいね」

四分音符、八分音符、二分音符、混合などとピアノに合わせてたたかせる。次に曲に合わせてたたく。

変わったたたき方をした子どもをふたり、みんなの前でたたかせる。

次にタンブリン、トライアングル、鈴を加えて曲を楽器ごとに分けて、先生は次は何と指示しながらたたく。

各楽器を交替し合って合奏する。

子どもたちからでてきた曲をとりあげながら合奏する。

(つづく)